

114
A 125
4

第百八十九号 五ノ葉半

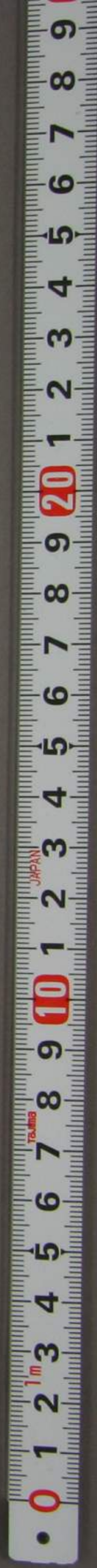
天正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



六月二十九日、ジャパングゼット抄譯

ホルモサ戦争

去月二十日戦以來戦ヒナキト見ヘテ病院
病者ヲ見シ処新ラクニ傷ヲ受ケタ者
ヲ見ス而メ當今日本ノ動靜ヲ窺ヒ識ルニ甚ク
難シ之レ西郷氏ノ引卒セシ兵士ノ中ニ外國
語ヲ知ル者ナキ故ナリ然レ氏風説ニ日本ノ強
兵千五百余人三隊ニ別レ各道ヲ異ニシテ内國
ニ攻入シ四箇村ヲ焼シガ土人ノ之レニ出テ遇
フ者ナカリシトソ之レフータン族前ノ戦ヒ後



直チニ逃ケ去リタルト思ハル然レ其族ノ北
方ノ隣國ハ其族ノ領内ニ入ルヲ抗スルヲ以テ
此兇族ハ餓死マゼレハカ劔ノ下ニ死スルニ至
レリ若シ又隣國ニテ此兇族ヲ領内ヲ通行セ
シメ或ハ隠シ置ク時ハ日本人之ヲ獵スト
ランキアー兵ノ傍ノ山ハ卑ク登ルニ難カラス
其少シ北ノ山ハ較スルニ高ク且嶮阻ナルヲ以
テ兇族此山ニ入リナハ日本ノ追兵ヲ防グニ難
カルマジ
二十九日ニランキアー港内ニ碇泊セシ諸船海

ヲ信義ヲ以テ議
同年五月ニ使節一行中ノ一人タル柳原氏舌官
鄭氏ト共ニ外務卿副島氏ノ命ヲ受ケテ我官省
ニ来タリテ左ノ三條ヲ問ヘリ即チ
第一條 マコーハ支那屬地ナルヤ或ハホルト
ガヤノ屬地ナルヤ
第二條 朝鮮國獨立國タルヤ或ハ否ラザルヤ
第三條 ホルモサ生蕃琉球人ヲ兇殺セルヲ以
テ之ヲ質サン為メニ使節ヲ送ラントノイナリ
此時我輩細密ニ指示セリ再々副島氏舌官鄭氏

ヲ以テ左ノ如ク曰ヘリ

第一條ハマコト日本貿易ヲナサント欲スル
ヲ以テ支那管轄ニ屬スルヤ否ヲ問ヒ前以テ條
約ノ基ヲ定メント欲スル為メナリ第二條ハ支
那ヲテ日本ト朝鮮ノ不和ヲ勸解センテ欲セ
ル為メナリ第三條ハ日本ヨリホルモサ生蕃ニ
使ヲ遣ハス旨趣ハ特向後若シ我國人其海岸ヲ
通行スル片生蕃ノ厚ク遇センテ欲スルカ為
メナリト是レ支那日本兩國交誼ノ厚キ徵ニテ
都テノ疑惑解ケムリ其後チ副島氏歸國ノ時我

輩彼レニ對シテ結ビシ所ノ條約ヲ背ク可カラ
スト云ヒタル片副島氏は即チ予モ亦甚々希望
スル所ナリト云ヘリ己ニ副島氏去レル後チ久
シク日ヲ經レ氏前ニ云ヘル三條ニ関セル所ノ
沙汰ナシ且我輩曾テ盟約ノ條目ヲ變スル所ヲ
許可セシメナシ且我輩兩政府ノ間ニ不和ヲ引
キ起ス如キ事ナシト思ヘリ然ルニ今北京ニ在
留スル各國ノ外國ミニストル我輩ニ告ケテ曰
ク今日日本ニテホルモサ生蕃ヲ征スル為メニ此
島ニ兵ヲ送レリト其他新聞紙風説此海岸ヨリ

ノ報告ニ今年ノ第二月ニ貴國ノ軍艦アモイ港
ニ碇泊シ且ツ此地ヲ借リテ練兵セントスト云
ヘリ而メ此船將ノ辞ニ此船ハホルモサヨリ来
リシト云ヘリト

ホルモサハ支那海ヲ遙カニ隔リタル洋中ノ孤
島ナリ而メ我輩未タ曾テ此土人ヲ法律ヲ以テ
束縛セス且ツ彼等ヲ支配スルノ法ヲ定メス之
レ^レレイリ^レ按スルニ礼^レ記ナル可シノ載スルトコロノ金言乃
チ民ノ風俗ヲ變セス其善ナルモノヲ取テ彼等
ニ許ス可シト云ヘルニ從ヘルナリ實ニ此生蕃

地ハ支那ノ屬ナリ又此クノ如キ蕃夷ノ遠隔セ
ル地ニ住セル者ハ都テ此例ニ倣ヒ支那ニテ其
風習ヲ改メス

我輩日本ニテホルモサヲ征スルノ企テアリト
聞キテ大ニ驚キ且訝カレリ若シ實ニホルモサ
ヲ征スルナラハ何等ノ故ニ先ツ我輩ニ報知セ
ザルヤ今アモイ碇泊セル何等ノ目的アリヤ聽
ンテヲ請問ワナリ頓首再拜

プリシ、コン
其他九人連名

蘭

鑑
記